

# いさやま大介



## プロフィール

教員の両親から生まれる。  
 中学から大学までは水泳部のキャプテン。  
 神戸大学発達科学部を卒業。  
 灘区の松蔭中学と神戸海星中学・高校で、合計18年間、理科と化学を教える。  
 神戸市中学校体育連盟にて、水泳競技部理事および灘区・東灘区ブロック長を務める。  
 近畿カトリック水泳連盟の世話係を10年間務める。  
 地域子ども水泳教室のコーチ。  
 地元少年野球部の元コーチ。  
 2015年4月の神戸市会選挙に灘区から出馬、8,127票をいただき初当選。  
 文教子ども委員会・大都市行財政制度に関する特別委員会所属。  
 議会活動のかたわら、週2回の駅頭活動と週末の地域回りを現在も欠かさず継続中。

発行元

神戸市会 維新の党・民主党合同議員団  
 〒650-8570  
 神戸市中央区加納町6-5-1 1号館29階  
 TEL: 078-322-5845  
 FAX: 078-322-6171

# Vol.4

## 「教員の労働条件を改善し、「教育先進都市・神戸」を目指す。

OECDが2015年に発表した『国際教員指導環境調査 (TALIS)』によれば、日本の教員の一週間あたり勤務時間は**53.9時間**と、調査に参加した35の国・地域の中で最長となりました。また、授業以外の周辺業務、特に**課外活動や事務作業に費やされる時間がきわめて長い**一方で、**肝心の授業時間は17.7時間と、国際平均の19.3時間を大きく下回っている**ということもわかりました。

いさやま大介は、昨年12月8日に開催された第3回定例市会の場において「**教員の多忙化問題**」を取り上げ、当時神戸市で編纂が進んでいた教育大綱の中に、問題解決のための具体的な筋道として

- ① アンケート調査の実施やホットラインの開設を通じて、市内における教員の勤務実態を明らかにする。
- ② 特に負担の集中しやすい教頭については、職務内容および処遇の見直しを行う。

などの内容が盛り込まれ、それを踏まえた取り組みを行うことを久元市長の答弁から確認しました。

すでに大阪市の一部地域では、これまで教員が担当していた部活動の指導業務を外部団体に委託するなど、教員の労働時間を適正化するための実践的な取り組みが始まっています。

**教員が周辺業務に忙殺されることなく、きちんと授業に集中できるような環境作り**を進めていくために、いさやま大介は学校教育の現場を知る者として、今後も神戸の教育の現状と問題点を強く訴えてまいります。

## 教員の一週間あたり勤務時間



出典：OECD「国際教員指導環境調査 (TALIS)」2014  
 ※数字はいずれも中学校教員のもの